

p 39 「一問一答」

1. 内服薬の有効成分の消化管での吸収は、濃度の高い方から低い方へ拡散していく現象である。
2. 禁煙補助剤（咀嚼剤、ニコチンガム）のニコチンは、口腔粘膜から吸収されて全身作用を現す。
3. 点眼薬は鼻涙管を通して鼻粘膜から吸収されることがあるが、これを防ぐためには、点眼後、目頭の鼻涙管の部分を押さえるとよい。
4. 消化管で吸収された内服薬の有効成分は、そのまますぐに全身循環に移行する。
5. 循環血液中に移行した有効成分の多くは、血漿タンパク質と結合して複合体を形成し、薬物代謝酵素によって代謝を受けたり、トランスポーターによって輸送されたりする。
6. 医薬品の有効成分は未変化体のままで、あるいは代謝物として、体外へ排出されるが、肺から呼気中へ排出されることはない。
7. 口腔内崩壊錠は、口の中で舐めたり噛み砕いたりして服用するものである。
8. 適用部位を水から遮断したいときは、クリーム剤より軟膏剤を用いるとよい。
9. カプセル剤は、カプセルに原材料として用いられているゼラチンがブタ等のタンパク質のため、アレルギーをもつ人では使用を避けなければならない。
10. 解熱剤のような全身作用を期待して使用する坐薬は、内服薬より作用が速やかに現れる。
11. 鼻腔粘膜の下には毛細血管が豊富なため、点鼻薬の成分は循環血液中に移行しやすい。
12. 有効成分は主に小腸で吸収される。
13. 坐剤は、使用後初めに肝臓で代謝を受けて循環血液中へ有効成分が移行し全身を巡って作用を現す。
14. トローチは、薬効を期待する部位が口の中や喉であるものが多い。飲み込まずに口の中で舐めて、徐々に溶かして使用する。
15. 小腸等の消化管粘膜や腎臓にも、かなり強い代謝活性がある。
16. 薬物代謝酵素の遺伝子は個人差がある。

【解答】

1. ○
2. ○
3. ○
4. × 消化管で吸収された内服薬の有効成分は、門脈を通過して肝臓に送られ、代謝を受けてから全身循環に移行する。
5. × 複合体を形成した有効成分は、薬物代謝酵素で代謝されず、トランスポーターによって輸送されることもない。
6. × 医薬品の有効成分は、肺から呼気中へ排出されることもある。
7. × 口腔内崩壊錠は、口の中の唾液で速やかに溶ける。舐めたり、噛み砕いたりして服用するのはチュアブル錠。
8. ○
9. ○
10. ○
11. ○
12. ○
13. × 坐剤は、使用後初めに肝臓で代謝を受けずに循環血液中へ有効成分が移行する。
14. ○
15. ○
16. ○